

二〇二二年度 第一回 入学試験問題

適性検査Ⅰ

(共同作成型)

試験時間 四十五分

注 意

- 1 問題は **1** のみで、4ページにわたって印刷してあります。
- 2 声を出して読むはいけません。
- 3 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、問題用紙と解答用紙を提出してください。
- 4 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書いてください。
- 5 **受験番号**を解答用紙の決められたらんに記入してください。

佼成学園女子中学校

受験番号

1

次の「文章1」と「文章2」を読み、あとの問題に答えなさい。
 (※印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

【文章1】

急速に進む多文化社会、そこで求められるのは、※自律、そして自分の言動に責任を持つことなのですが、日本人にとっては、これはどういう意味をもつのでしょうか。均質な人間の集団では、頼り頼られるといった「べったりした人間関係」が生じやすいのですが、多文化社会では自律と自己責任を基礎とした人間関係が大事です。均質な人間の集団では、※相互依存がよりうまく機能しますが、行きすぎると、他人に甘えすぎたりするものです。甘えすぎが高じると、とかく責任の所在が不明になったり、息苦しいまでもたれあいの人間関係が生まれてきます。日本の社会はどちらかと言えばこれに当たります。日本では、相互依存の関係が重視されるあまり、自律を大きな価値として位置づけてきませんでした。ですから多くの日本人にとって、自律すること、自分の言動に責任を持つことは、ひとつの大きな課題と言えるかもしれません。

一方、自律を重視する傾向が行きすぎると「相互依存は良くない」という考えを導きかねません。ともすると社会もギスギスした社会になりがちです。しかし、人間は一人で生きていくことができないので、集団を形成しその中で生きていく動物ですから、相互依存こそが人間社会の基盤なのです。したがって、むしろ、相互依存ができることは

理想なのです。つまり、自律と相互依存、どちらも不可欠な能力であって、そのバランスが鍵と言えるでしょう。

一見、「自律」と相反するように見える「相互依存」ですが、この相互依存は、どちらかと言えば日本人には慣れ親しんだ考え方、やり方です。「人」という漢字を小学校で学ぶときに、人とは支えあって生きていくものである、との説明と共に漢字を学んだ人も多いことでしょう。

私が以前、米国で同じ会社(日本企業と米国企業との※合弁会社)で一一緒に働いたアメリカ人女性が30年前を振り返り「相互依存」についてこうつぶやいていたのが印象的です。「あの会社の良かったことは、相互依存を許されていたことだ。」私にとって「相互依存」は当たり前の感覚でしたので、その良さに気づくこともなかったわけですが、アメリカの会社で働いてきた彼女には、日本的なこの合弁会社で「相互依存」が許される風土に出会い、新鮮に映ったようでした。彼女の発言に、私は軽い感動を覚えたものです。そして、日本人であることを誇らしく感じました。

このように私たちは、私たちにとって当たり前のことは何の意味も価値もないように捉えているのですが、または意識さえないのが普通なのですが、異文化の人の目を通して初めてその意味や価値が見えることはよくあるものです。彼女の感想から気づいたのですが、日本人は「相互依存を許してやる能力」があると言っても言いすぎではないと思います。

一方で、日本人が「自律」の能力をより高めていく、養っていくことが今後の多文化社会で生きていくには大事なことです。「自律すること」を最高の価値観のひとつとして社会に位置づけている文化も少なくありません。個人主義の強い文化、例えばスイス系ドイツ人やアメリカ人などがそうです。将来は、このような価値観を持った人たちと隣人となったり、机を隣り合わせて仕事をすることになるかもしれない。インターネットでそういう人たちと交渉することになるかもしれません。そういう文化で育った帰国子女が同級生になるかもしれない。このような環境に生きている私たちとしては、相互依存の能力を維持しながら、かつ「自律していくこと」をもうひとつの大事な価値観として、これから心がけていく必要があるでしょう。

「相互依存」を一つの基軸とする日本の社会観では、人間関係を網にたとえたりします。自分という人間は、網の目のひとつである。一見、自律とは関係のない感覚に思えますが、はたしてそうでしょうか。むしろ、こう考えられませんか。そのひとつの網目をしっかりと保つこと、まさにこれが「自律する」ということではないかと。自分という網の目が破ければ、隣の網目にも悪影響を及ぼすことは※必ずです。ア ヒと目ひと目の網がしっかりと張ってあればこそ、網が網として機能することになります。たったひとつの網の目では魚や鳥を捕まえることはできませんが、ひと目ひと目がしっかりと破けずにつながっている状態の網でならば、一匹どころか大漁も夢ではありません。このように、これからの世の中は各個人が自律してこそ、より

バランス良く健全に相互依存ができていくのだと思います。

(山本喜久江・八代京子『多文化社会のコミュニケーション
買いかぶらず、決めつけない基本スキル』)

〔注〕

※自律…自分が決めたきまりに従って行動すること。

※相互依存…お互いに頼り合うこと。

※合弁会社…複数の企業が共同で設立した会社。

※必ず…必ずそうなること。

「文章2」

今、日本には多くの外国人が生活しています。日本に仕事で来ている人、留学で来ている人、中には難民の人もいます。国際結婚の人も増えています。皆、多かれ少なかれ日本語で苦労しています。ことばができるかできないかは地域社会に溶け込むことができるかどうかの鍵です。ですから、ことばの習得を手助けできるなら、なるべくしてあげてほしいものです。※齊藤さんは、研修のことが心配のようですが、難しい言語理論や教授法を学ぶわけではありません。日常使っている日本語をどのように教えるか、非常に基本的で実際的で実用的なことを学ぶ研修です。一般の人々に十分理解できる内容です。※躊躇しないです。一歩を踏み出して欲しいものです。楽しい経験が待っていることでしょう。

地域社会に外国人が増えると治安が悪くなるとか、雰囲気が悪くなると言っている嫌がる人がいますが、これは法を犯す外国人と法に従って生活している外国人住民を※十把一からげにした一方的な批判です。私たちは、外国人の方々の働きの恩恵を受けていることを忘れてはなりません。3K(きつい、汚い、危険)の仕事をしてもらっている場合はなおさらです。労働環境が厳しい人々には特に地域社会の温かい人間関係を経験してもらいたいものです。良い人間関係があれば、治安を乱したり、雰囲気を悪くしたりすることは少なくなるでしょう。また、日本人側も彼らの文化習慣がわかれば一方的な批判をしなくなるでしょう。いろいろな文化背景の人々が助け合って生きていくこと

で地域社会を豊かにしていくことができるのです。

日本人だけで固まって自己満足に陥るのではなく、国際的に相互依存している社会で生き生きと生活していくために、私たちは、外国人と交流することで積極的に市民としての責任を果たしましょう。それは、特別なことをするというのではなく、「事例2」で紹介した山本さんがアパートの隣人のアメリカ人男性に声をかけるといような、ちよつとした行動からスタートすれば良いのです。地域の祭りに誘ったり、一緒にウォーキングをしたり、いろいろな行事に参加してもらったりすることもできます。地区主催の研修会や親睦会で相手の文化習慣を学んだり、日本語や日本の文化を教えたりすることもできます。自分のできる範囲で自然な形で責任を担えばいいのです。最初は予想しないことが起きるかもしれませんが、コミュニケーションをしっかりとれば、きつと互いに楽しい経験ができ、このグローバル社会を楽しく共生していく能力が身につくことにもつながります。一石二鳥ではないですか。

(山本喜久江・八代京子『多文化社会のコミュニケーション
買いかぶらず、決めつけない基本スキル』)

【注】

※齊藤さん：外国人に日本語を教えるボランティアを検討している人。

※躊躇：ためらうこと。

※十把一からげ：多種のものをひとまとめにあつかうこと。

※親睦会：親交を深めるための会。

〔問題1〕

ア ひと目ひと目の網がしつかりと張ってあればこそ、網が網として機能するとは、どのようなことをたとえた表現ですか。五十文字以内で説明しなさい。

〔問題2〕

イ 楽しい経験が待っていることでしょうかとありますが、外国人と交流すること、どのような良いことがあると筆者は述べていますか。文中から三十五字以上四十字以内でぬき出しなさい。

〔問題3〕

多文化社会で生きていくためにはどのようなことが必要か、あなたの考えを四百字以上四百四十文字以内で書きなさい。ただし、次の条件と〈へきまり〉にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にまとめて書くこと。

① 第一段落では、「文章1」をもとに、日本人の課題についての筆者の考えをまとめる。

② 第二段落では、「文章2」をもとに、外国人を受け入れることについての筆者の考えをまとめる。

③ 第三段落では、①・②をふまえてあなたの考えをまとめる。

〈へきまり〉

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や などそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます(ますめの下に書いてもかまいません)。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、。で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。